



SANSHIN GROUP

Monthly Report on the ESG

Mar.2021

10 YEARS ON

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report (品質)
4. ESG Report (環境)
5. ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンホウ

TOP MESSAGE

いきなり炭素社会からの離別を告げ、ビニールは石油から出来ている知らないでしょ、ドヤ顔で力説するセクシィ大臣がSNSで炎上する、一方、鼻息荒い新進気鋭の斉藤幸平は環境破壊もコロナもすべては資本主義のせい！と坊主憎けりゃ袈裟まで憎い子どもの喧嘩上等。

こんな調子で日本の環境問題は進めていけるのか（いけるはずもない）。まともに環境問題を語り、政治と経済の両面から導けるリーダーはいないのか。結局、民間企業にすべてがしわ寄せされる。血のにじむようなイノベーションでクリアするであろう民間企業。このストーリー以外に環境問題の解決はありえない。永田町も霞が関も虎ノ門も黙ってる。

サンシングループ代表取締役社長
博士経営学 石井宏宗

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

東日本大震災から10年となりました。当日はサンシン本社も大きく揺れました。帰宅困難や本社建屋の破損、また刻一刻と明らかになる被害状況など、当時の状況は今でもはっきりと思い出すことが出来ます。備蓄品など災害に対する備えはもちろんですが、発災時の心構え（正しく冷静な判断）が最も大事なのではないかと思います。（Y.Y.）

SANSHIN Hong Kong

昨日海にハイキングに行った時、チームメイト中の四歳の子供がズーと空き瓶を持って歩きました、5キロ後ゴミ箱がある時に捨てました。環境保護の意識はすでに次の世代に伝えたと感じます。（P.L.）

CSI

セブの季節は雨期と乾期があります。雨期は6月～10月・乾期は11月～5月になります。日中は晴れて日差しが痛い程です。夜になるとスコールが降ります。気温差が有りますので風邪を引かないように気を付けております。（K.S.）

SANSHINWest

東日本大震災から今年で10年が経ちました。この間にも各地で災害は沢山ありましたが、自分の中で災害の備えに対しての意識が薄れつつあったような気がします。近頃地震が多発していますし、改めて災害時の備えが必要だと思う今日このごろです。（F.H.）

SHINKOWA

東京では桜の開花宣言も出され、ようやく春が来たような気候になって来ましたが、緊急事態宣言中ですので（新型コロナ）外出は控え、テレビ画面で桜を見るようですが、工場近くに立派な桜の木が1本あり、満開になると見事な姿で魅了されますので、車窓から眺めたいと思います。（M.N.）

SC2

【香害】北海道は全国でも有数の香害対策自治体です。3/24には旭川市市議会で「家庭用品に含まれる香料による健康被害の実態説明等を求める意見書」が全会一致で採択されました。この「香料」には、無香料の抗菌剤等も含まれます。実は「無香料」という名の香料も存在するのです。今全国で同様の取り組みをしている自治体は14。まだまだ少ないですが、もっと知られてほしい日用品公害です。（M.I.）

ESG Report (品質)

今月のTOPICS

「今やるべきこと」に集中するには

本当はやらなくちゃいけないことがあるのに、先延ばしにしていますか？ やるべきことがあるのに他のことに気が散りがちで、その衝動をもっと生産的なことに向ける方法はないかと悩んでいるなら、「気が散ったことを記録」としてつけるという手があります。

■なぜ気が散ったことを記録するといいいのか？

記録することで、なぜ集中力が目の前のタスク以外のものに向かいがちなのか、その理由が見えてくるはずです。また、仕事に取りかかるのに適した時間帯や、休憩を取るのに良いタイミングなどを把握するのにも役立ちます。

■実際に記録してみた結果

記録をつけ始めてすぐに、気が散るのには、2つの大きなキッカケがあることがわかります。

「どうやって取り組んだらいいのか、糸口が見つからないとき」、「決断を下さなければならないのに、迷っているとき」

目の前にやるべきことはあるけれど、どうやってやればいいのか見当がつかないときとは、休憩を必要としていることの現れかもしれません。頭を休ませ、じっくり考える時間が得られた時に、最高のアイデアが生まれるということが多いのはちゃんとした理由があるのです。

■記録すべきもう1つの要素

「メールを送る」「資料を作成する」など、やるべきことを思い出したら、それをすぐ実行するのではなく、「気が散ったことを記録」の表の下にタスクとして書き込みます。こうすることで、頭に浮かんだやるべきことを忘れずに済むうえに、今集中していたことを中断して、全く別のタスクに手をつけてしまうことも防止出来ます。

あなたの気を散らせる要素をすべて書きとめたリストをつくりましょう。これで、今やるべきことに集中できます。あとでやるべきことは、今のタスクが終わってから実行すれば良いのです。

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

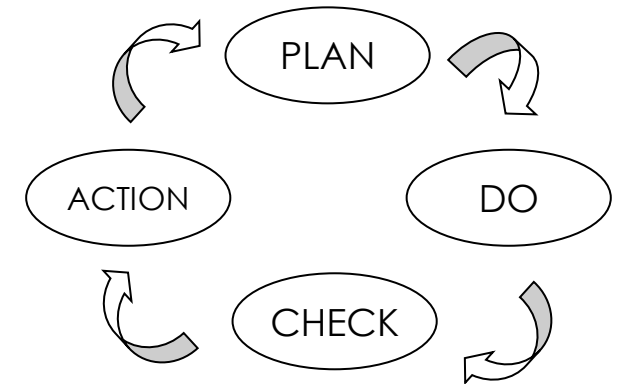
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



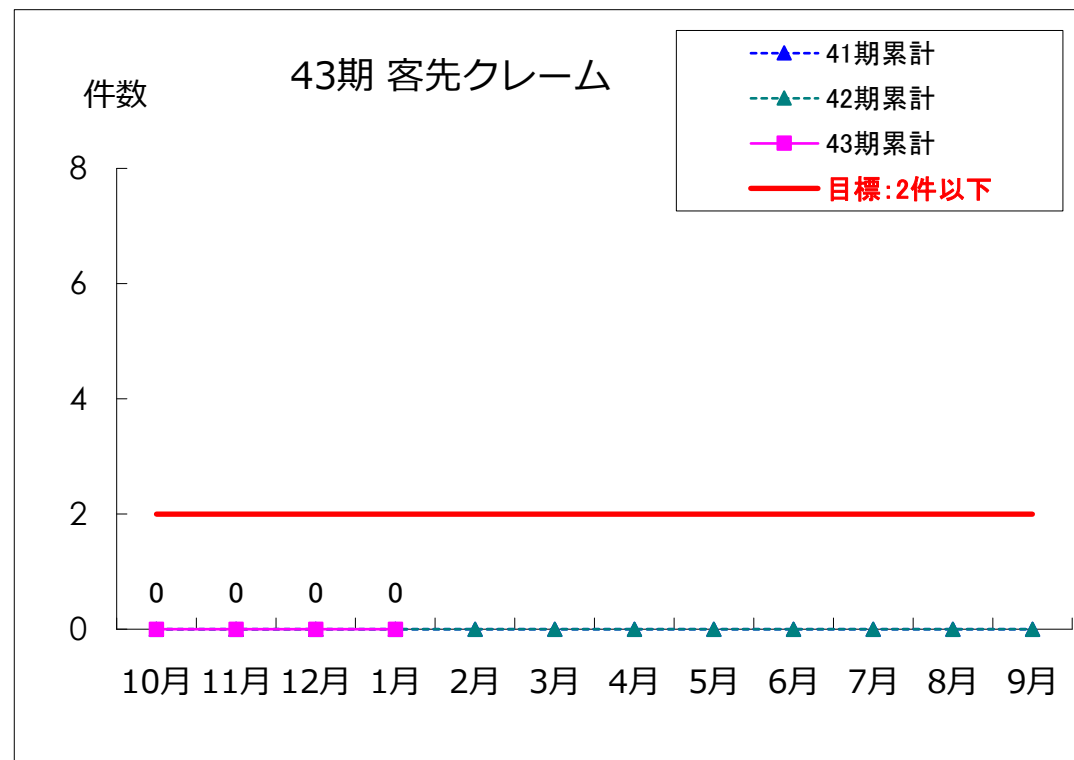
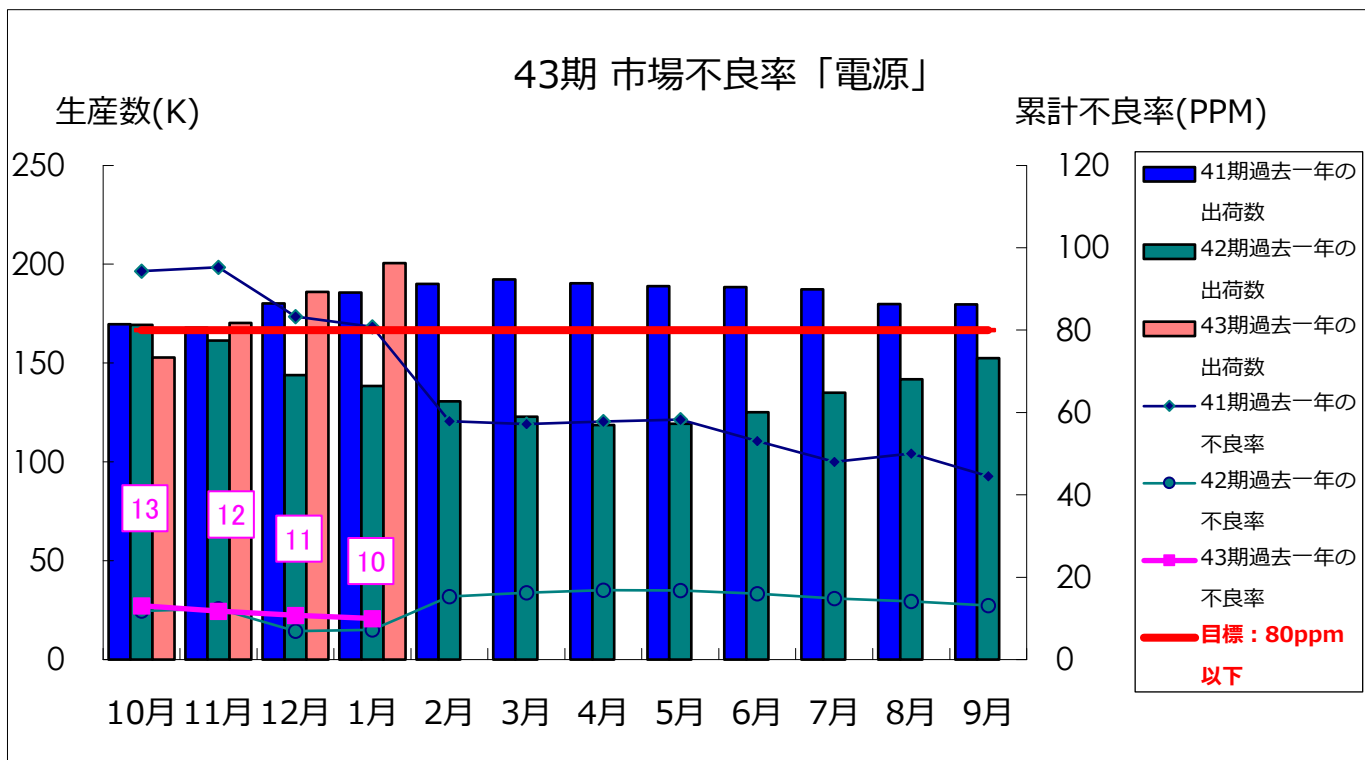
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入不良率 目標 80ppm

43期の累計不良率は、10ppm です。
 市場不良累計(過去1年分) : 2件 客先クレーム : 0件



ESG Report (環境)

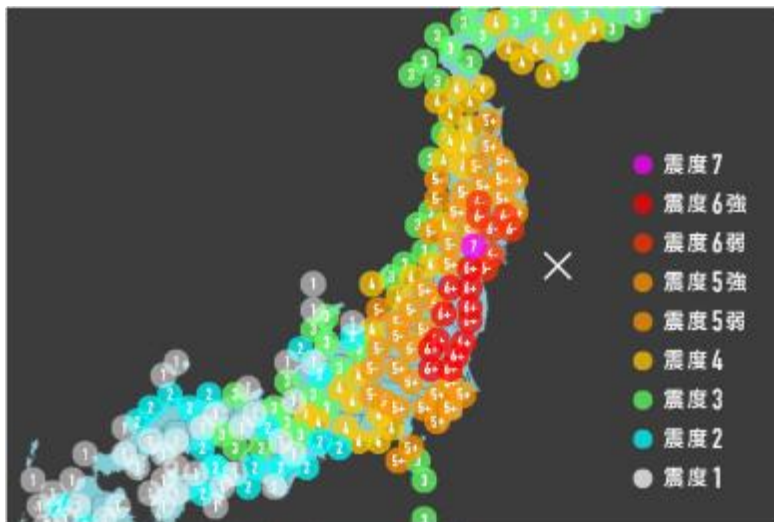
今月のTOPICS

□ 東日本大震災から10年の歩みと未来

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名されたこの地震の規模は、国内観測史上最大。マグニチュード（地震規模）は9.0で、1995年の阪神・淡路大震災の7.3を大きく上回り、宮城県栗原市では震度7を記録しました。

激しい揺れはあらゆる物を崩し、巨大な津波に襲われた東北地方の街は、住宅、田畑、車、あたり全体が白波にのみ込まれました。そして、大規模火災が発生。未曾有の被害が広がったのです。

□ 東日本大震災における各地の震度



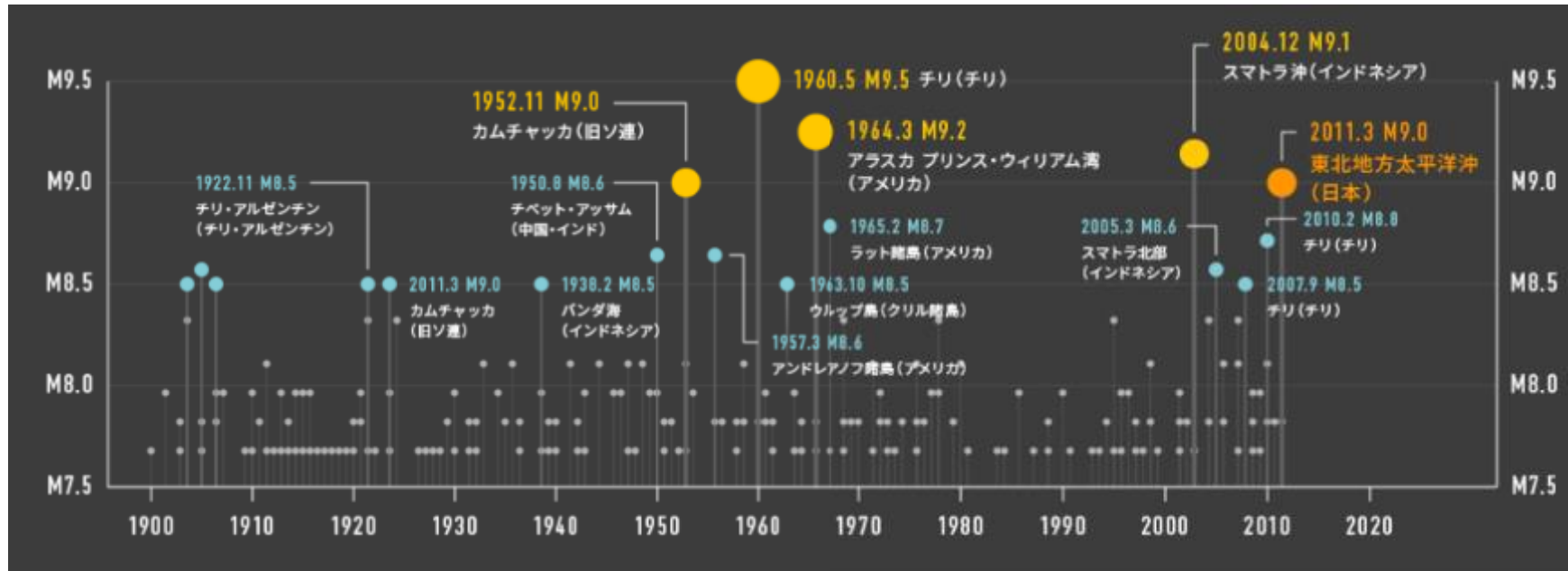
震源域は岩手県沖から茨城県沖まで及び、長さ500km、幅約200kmの断層が最大20~30m（海溝軸では50m）ずれ動いて破壊されました。地震波検知から8.6秒後、気象庁は東北5県に緊急地震速報を発表。東日本を中心に、北海道から九州まで広い範囲を激しい揺れが襲いました。

出典：気象庁「災害時地震・津波速報 平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」

今月のTOPICS

□ 世界の巨大地震 (1900年~2020年)

東日本大震災は世界的に見ても、1900年以降、記録に残るものとして4番目の規模となりました。そのあまりに巨大な地震に対してマグニチュードが飽和、当初はマグニチュード7.9と発表、2日後に確定値として日本観測史上最大規模の「9」に修正されました。



今月のTOPICS

□ 大津波警報

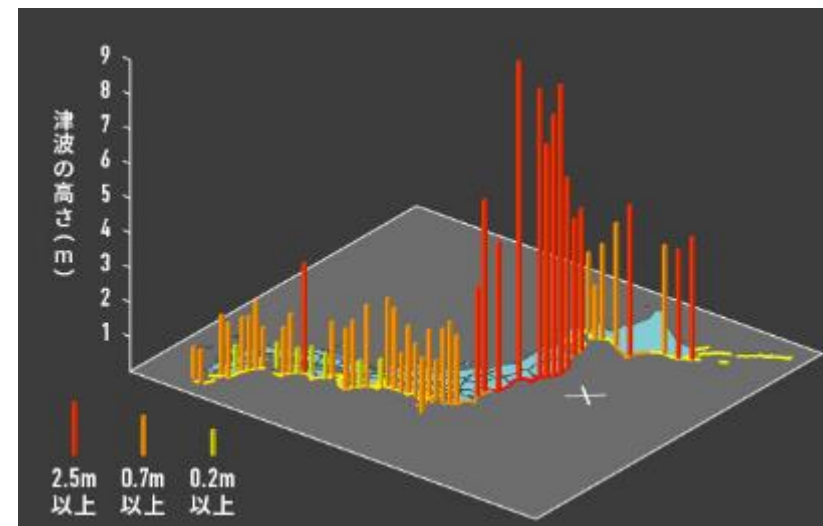


出典：平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震で発表した津波警報・注意報について

超巨大地震によって発生した大津波。津波観測点で記録された最高値は、福島県相馬市で9.3m以上でした。津波は、北海道から東北、関東地方の太平洋沿岸を中心に広い範囲に押し寄せたほか、日本海側やハワイ、北米にまで到達しました。

気象庁は最初の津波警報・注意報を地震発生から3分後に発表。しかし、このときは宮城県で「6m」と予想されたのが最大で、第2報で「10m以上」と更新されたのは発生から28分後のことでした。そして、その後も大津波警報の対象エリアが拡大していきました。

□ 実際の津波の高さ



出典：気象庁 災害時地震・津波速報 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震 平成23年8月

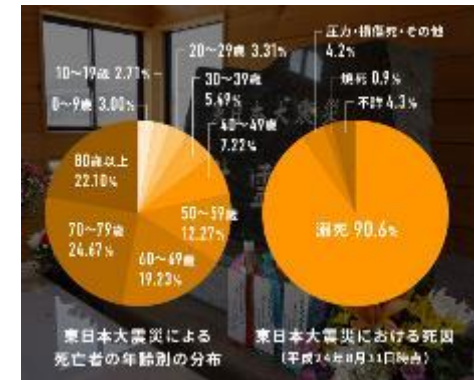
今月のTOPICS

□ 被害の状況

死者・行方不明者の99%以上が岩手、宮城、福島に集中しており、死因の9割以上が「溺死」。大津波による被害の大きさを表しています。特に多くの高齢者が犠牲となり、死者のおよそ7割が60歳以上でした。



住宅被害の大多数が津波によるもので、宮城県南三陸町で住宅の約6割が全壊するなど、太平洋沿岸部の市街地は壊滅的な被害を受けました。また、地震の揺れによる被害は旧耐震基準の建物に多い一方、体育館や空港などの施設では天井落下や家具什器の転倒などが発生しました。



出典：消防庁「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について」



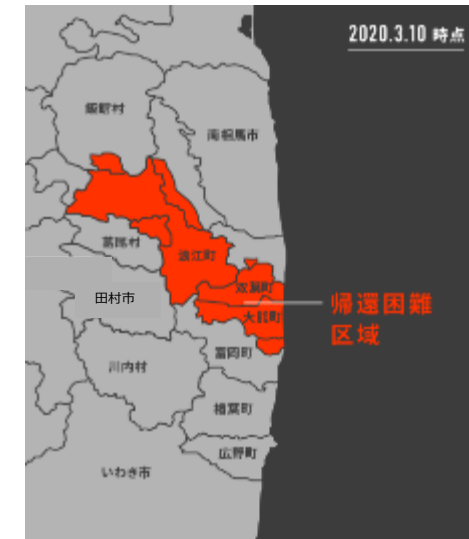
東日本大震災では、火災でも極めて大きな被害が出ています。消防庁によると、地震や津波に起因する火災は計330件。東北を中心に北海道から関東にかけて広い範囲で、特に「津波被害地域」「宮城県、福島県、茨城県などの震度5以上の地域」「首都圏の都市部」で多く発生しました。

今月のTOPICS

□ 警戒区域・計画的避難区域から帰還困難区域へ

震災発生から約2時間後の午後4時36分、福島第一原発で起きた津波浸水に伴う全電源喪失の結果、3基がメルトダウン（炉心溶融）するという世界最悪レベルの事故が起きました。事故評価は、チェルノブイリ事故（1986年）と並ぶ「レベル7」。放射性物質が大量放出された周辺地域には「避難指示」が出され、住民たちは長期の避難生活を余儀なくされました。

事故直後に設定された立ち入り禁止の「警戒区域」や「計画的避難区域」は、「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」「帰還困難区域」に整理されて徐々に解除されていったが、いまますべての帰還困難区域に戻れる見通しは立っていません。



□ 全国の原子力発電の現状 (2021年1月4日時点)

震災時に54基あった原発は、事故後に21基の廃炉が決まりました（事故前に3基）。残り33基のうち、いまま24基が止まったままで、事故後に定められた新規規制基準をクリアして再稼働した原発は9基のみ。それも西日本に集中しています。

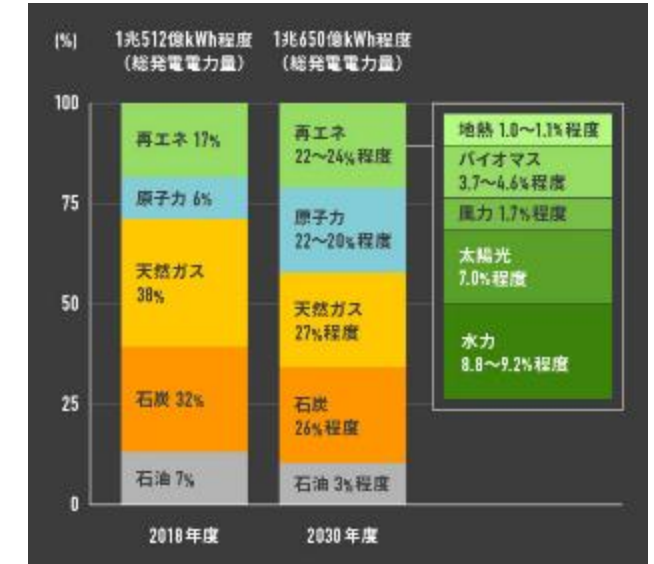
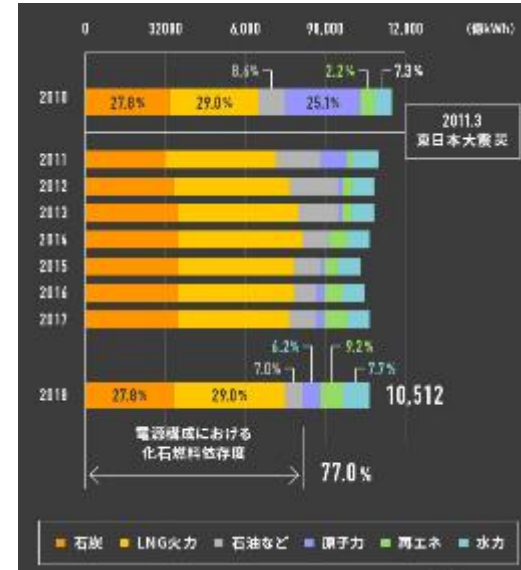
今月のTOPICS

□ 日本の電源構成の推移（供給）

事故後、国内の原発は約2年間の全基停止となり、日本の電源構成にも変化が表れました。足りない電力を賄うため、火力発電の比率が増加。2012年に創設された「固定価格買取制度（FIT）」によって、再生可能エネルギーの導入も加速しています。

□ エネルギー政策の方向性

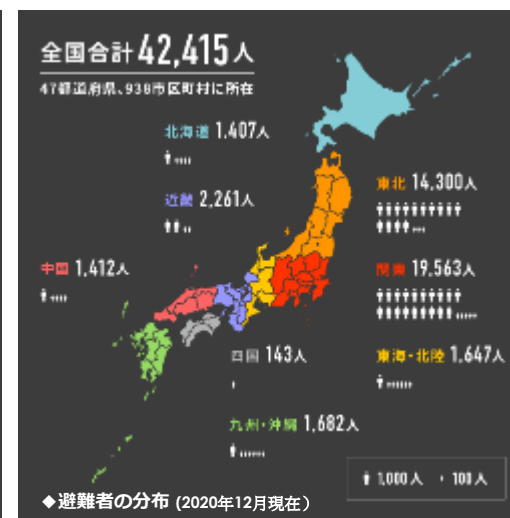
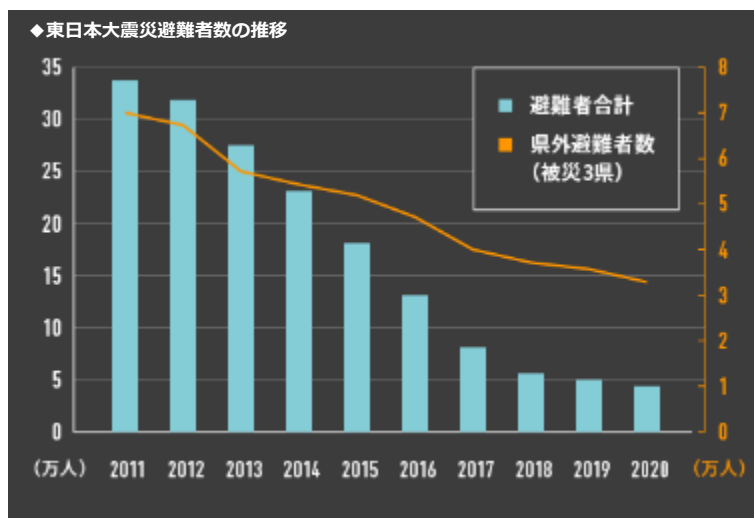
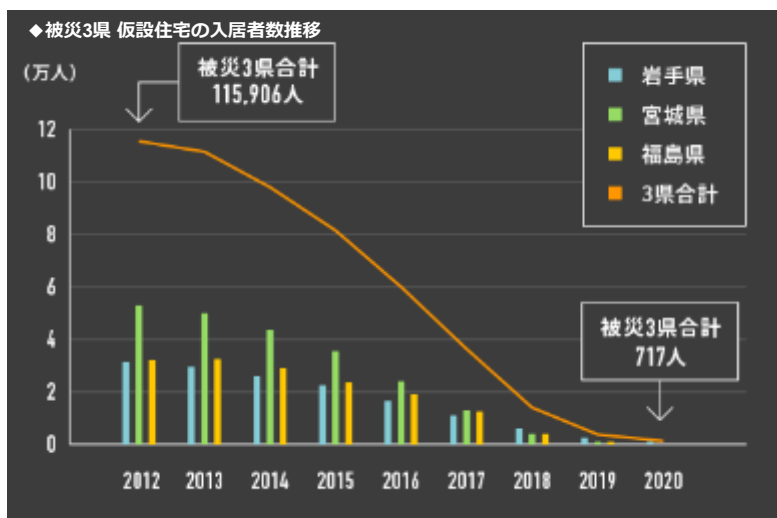
化石燃料を使用する火力発電は環境面で課題があるうえに、燃料を輸入に頼るため、エネルギー自給率の問題も生じています。政府は2030年の電源構成について、火力発電の依存度を下げる一方、原子力の比率を再び22~20%まで増やすのが望ましいとしています。



今月のTOPICS

□ 避難

地震や津波、原発事故などで、ことごとく失われた住まい。復興は急ピッチで進められたが、それでも避難生活が長引く人は少なくありませんでした。発災から3日目のピーク時には約47万人にも上った避難者数は、その後、どのように推移していったのでしょうか。そして、いまなお避難生活を余儀なくされている人はどれくらいいるのでしょうか。



今月のTOPICS

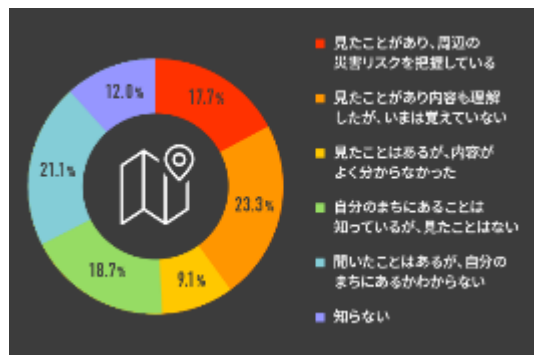
□ 防災の重要な三要素



災害発生時には、自分や家族の命を守る「自助」、隣人や地域の人と助け合う「共助」、行政機関などによる公的支援の「公助」の三つが柱になります。そのうち、自助で助かる命が7割といわれており、「事前の備え」が重要になります。

□ 防災のための事前準備

☑ ハザードマップの活用実態



ハザードマップの活用などで、災害を受ける恐れがある場所や、被害の程度を事前に把握できている人はどれぐらいいるのか。「(一社)防災ジオラマ推進ネットワーク」のアンケート(2019年1月)では図のような結果となり、約半数が見たこともないという状況となっています。

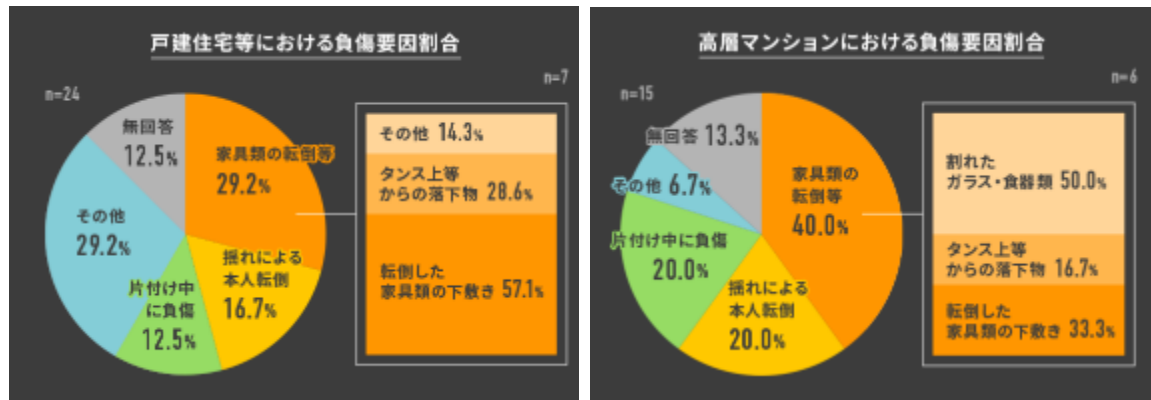
☑ ハザードマップの種類



ハザードマップは、地震や津波など自然災害が発生した場合の被害の範囲・程度、避難経路、避難場所などの防災情報が掲載された地図。印刷物は役所や公民館で配布されているほか、最近ではデジタル版をホームページやアプリで公開している自治体もあります。身のまわりの危険地点や避難場所・防災施設を事前に確認しておくことが重要です。

今月のTOPICS

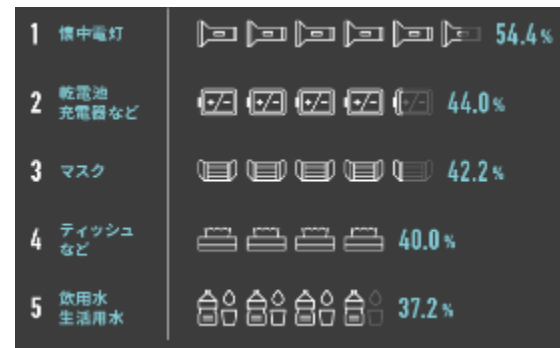
□ 住宅における負傷要因割合



地震の際に室内で負傷する原因としてもっとも多いのは、家具の転倒や落下です。熊本地震（2016年）における室内被害の調査では、高層マンションは戸建てよりも大きく揺れるため被害が大きく、片付け中に負傷する割合も高い。一方で約6割の世帯で転倒対策が取られていませんでした。将来、起こりうる地震に対しても、備えが必要です。

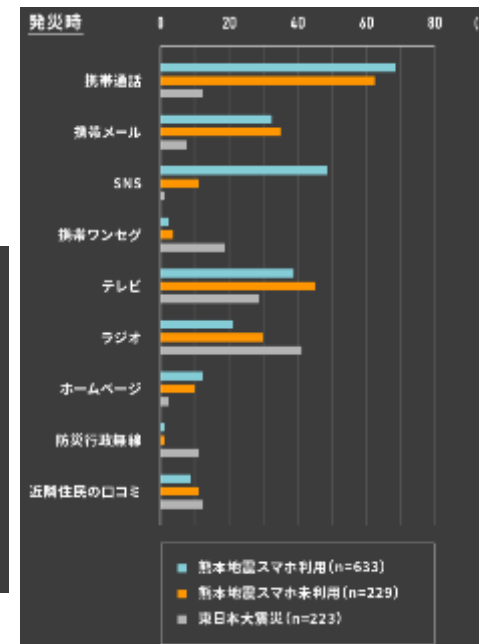
□ 防災グッズの準備率

東日本大震災以降、家庭での防災グッズの準備率は全体的に上昇しており、「LINEリサーチ」がユーザーを対象に実施した調査（2020年9月）では、上位のランキングのグッズに加えて、非常食や除菌用品、カセットコンロ、救急セット、ライター・マッチなどの割合が多くなっています。



□ 情報収集に利用した手段の変化

(東日本大震災と熊本地震の比較)



災害時の情報収集の手段は、時代とともに大きく変化しています。東日本大震災ではラジオや携帯ワンセグ、防災行政無線が活用されたが、熊本地震では携帯通話や携帯メール、SNSなどのパーソナルコミュニケーションの利用が目立っています。併せて、日ごろから家族との連絡手段を確認しておくことが重要です。

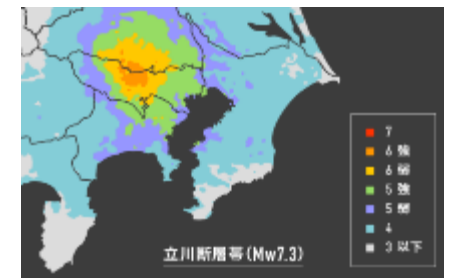
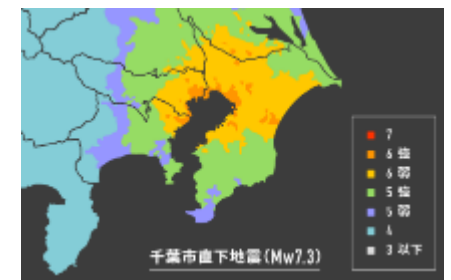
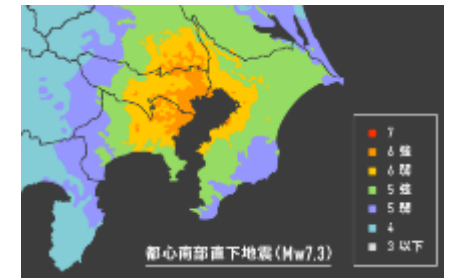
今月のTOPICS

□ 首都直下地震の想定被害規模

関東大震災（1923年）から約100年。マグニチュード7クラスの地震が、30年以内に首都圏のどこかで起こる確率は70%と予測されています。最悪の場合、死者はおよそ2万3000人、経済的被害はおよそ95兆円と想定され、被害規模は東日本大震災を超えることとなります。さらに、マグニチュード8クラスの最悪ケースも0~2%と推定されています。

□ 首都直下地震の想定震度分布例（一部）

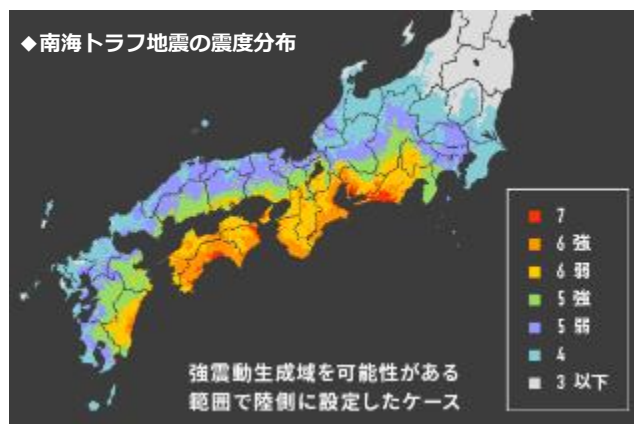
首都直下地震は、震源地、地震の規模、揺れ方について、いくつかのパターンが想定されます。そのいくつかを例にとり、想定震度分布を、予想されるモーメントマグニチュード（より精度の高い地震の規模の指標値）とともに示しました。



今月のTOPICS

□ 南海トラフ地震とは

駿河湾から四国沖にかけて水深約4000mの海底に広がる巨大な溝、南海トラフ。プレートの境界にあたるこのトラフでは、巨大地震がおおむね100~150年間隔で繰り返し発生している。前回の地震発生から70年以上が経過し、警戒感が高まっている。



□ 南海トラフ地震の想定被害規模

最大でマグニチュード9クラスの地震が発生。広域で強い揺れが発生し、同時に10mを超える大津波が襲来します。大規模な火災のほか、停電、断水、食料不足などライフラインも大きなダメージを受け、被害は東日本大震災をはるかに上回ると見込まれています。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



活動報告

- ①環境への取り組み
- ②廃棄物排出量
- ③コピー用紙使用量
- ④電力使用量
- ⑤切手・ペットボトルキャップ回収

環境への取り組み

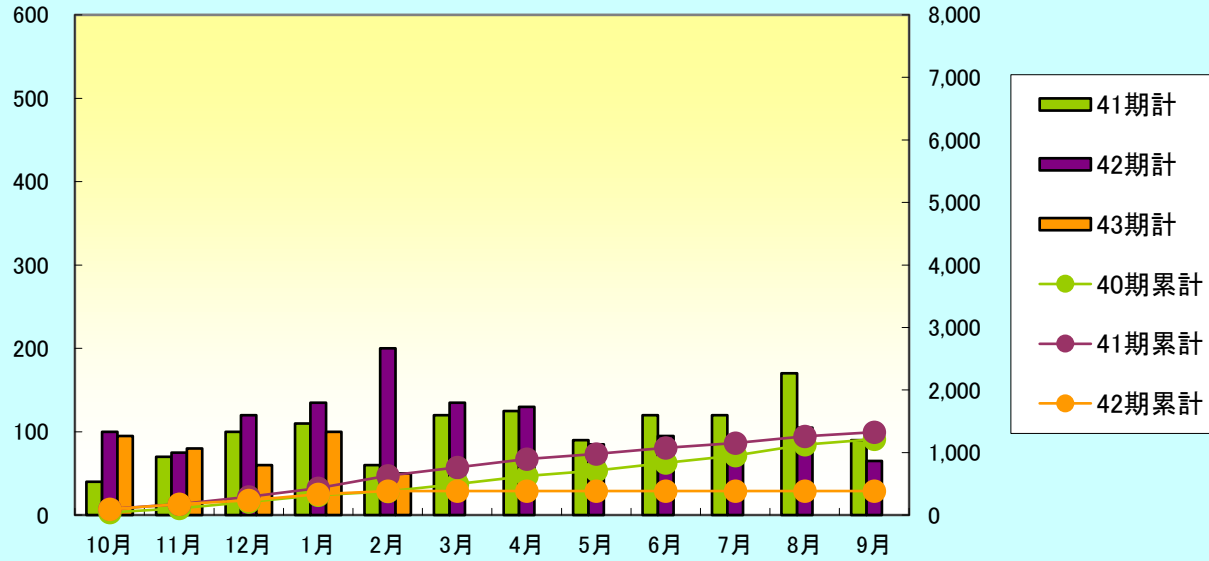
- ▶ 災害地域への義援金や植樹活動支援金の募金活動
- ▶ ソーラーシステム導入による再生エネルギーの活用（SSD headquarters & SHINTO）
- ▶ 年に一度、植林を実施（CSI）
- ▶ 省エネルギー機器の開発・販売を通じた環境への貢献
- ▶ ROHS対応部品の使用促進による環境負荷低減
- ▶ ペットボトルキャップ・使用済み切手の回収
- ▶ ウェアラブルカメラを導入し、5S活動を徹底（CSI）



一般廃棄物(SSD/本社)

月次/棒グラフ(kg)

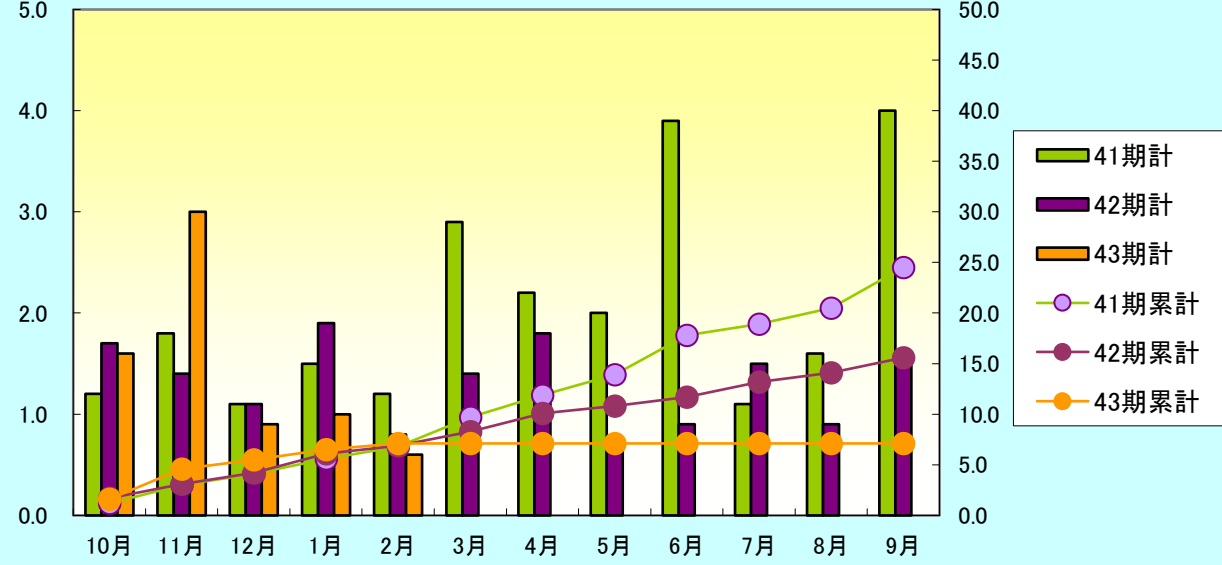
累計/折れ線(kg)



一般産業廃棄物(SSD/本社)

月次/棒グラフ(m³)

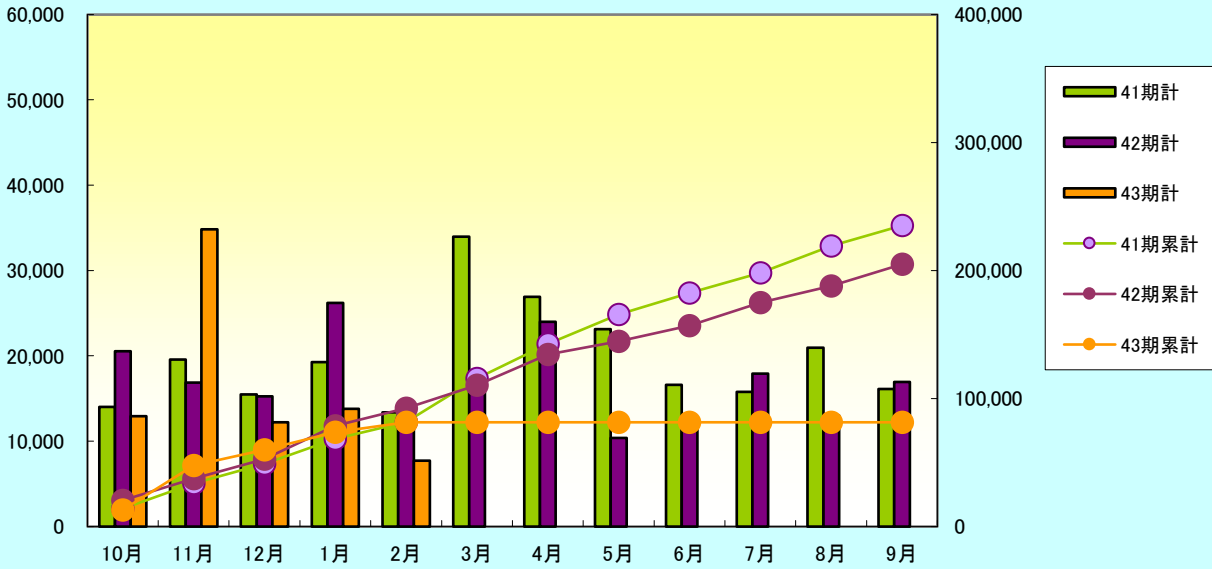
累計/折れ線(m³)



廃棄物処理金額累計

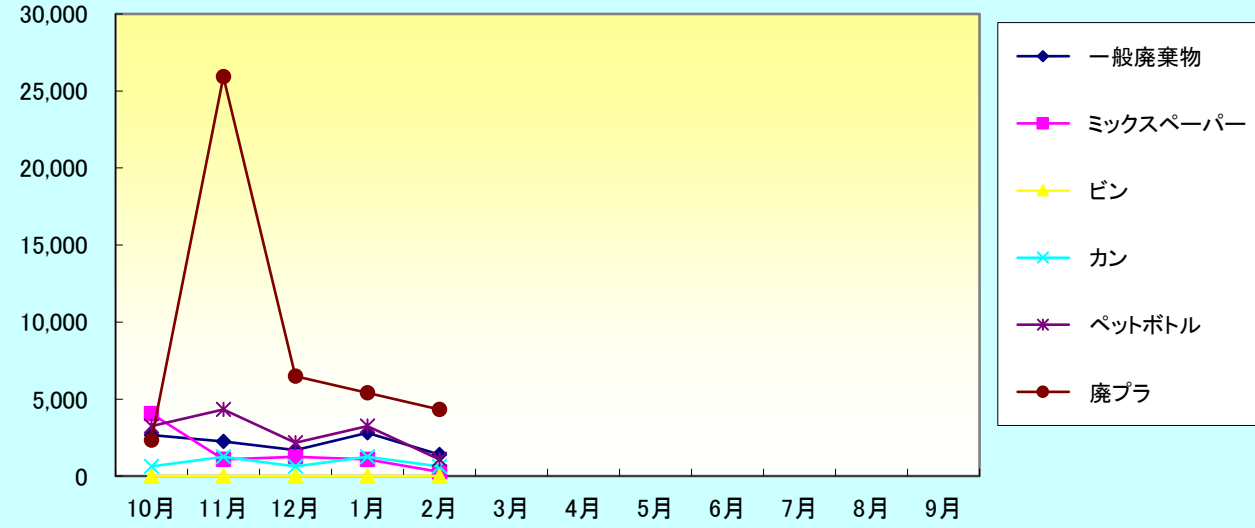
月次/棒グラフ(円)

累計/折れ線(円)



43期 廃棄物処理金額

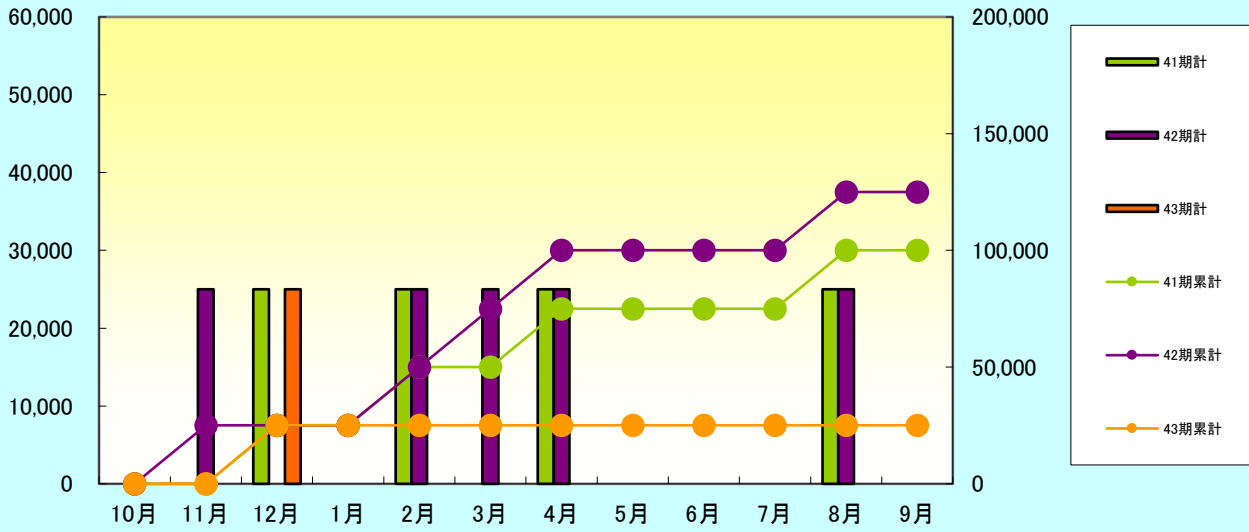
(円)



コピー用紙購入量(SSD/本社)

月次/棒グラフ(枚)

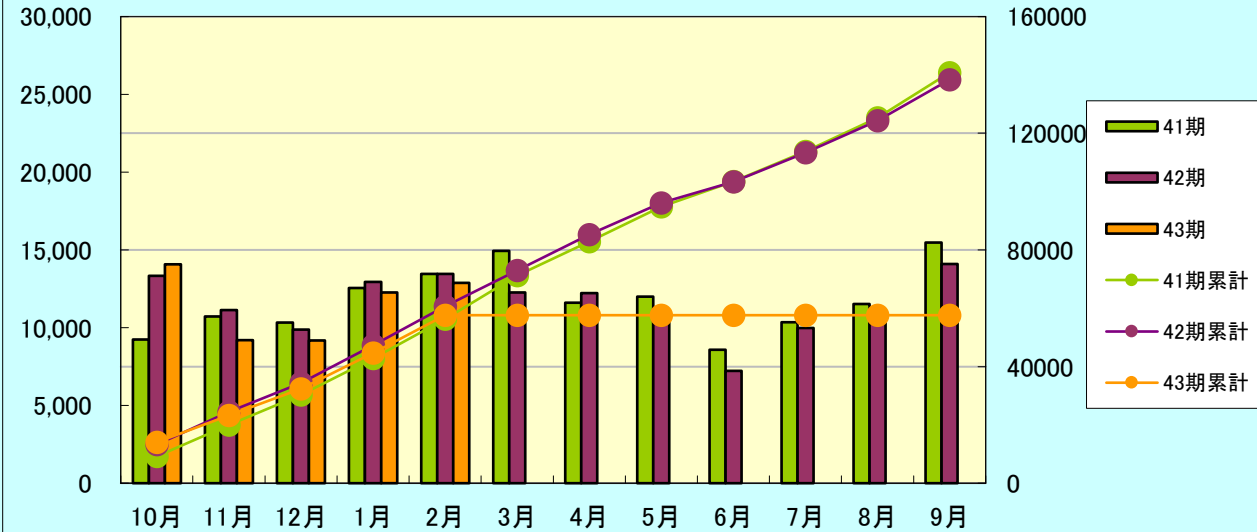
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

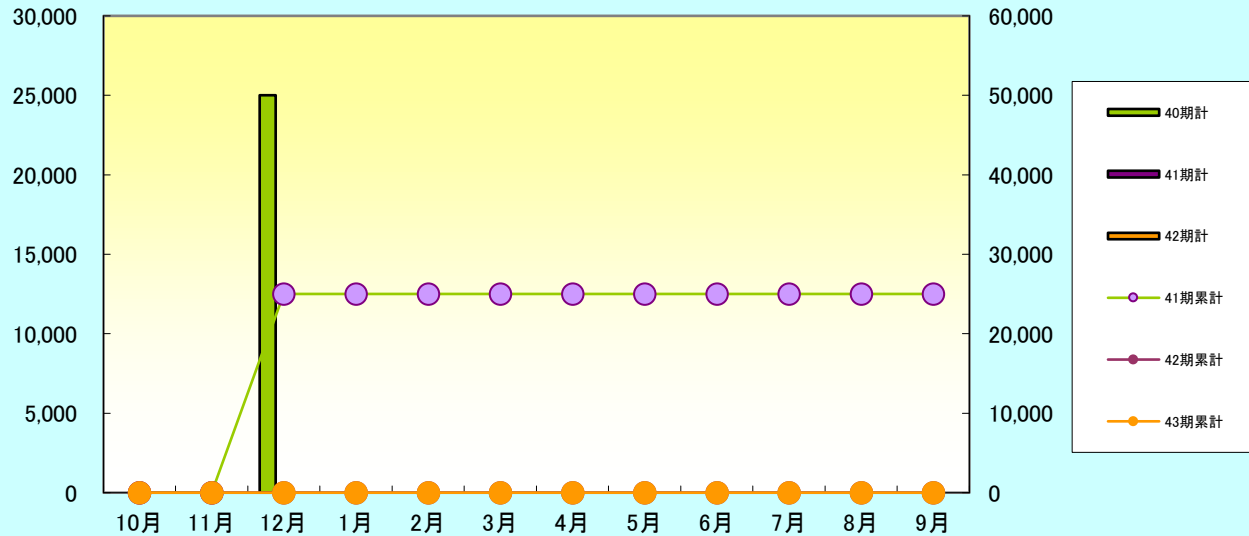
累計/棒折れ線(kwh)



コピー用紙購入量(SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(枚)

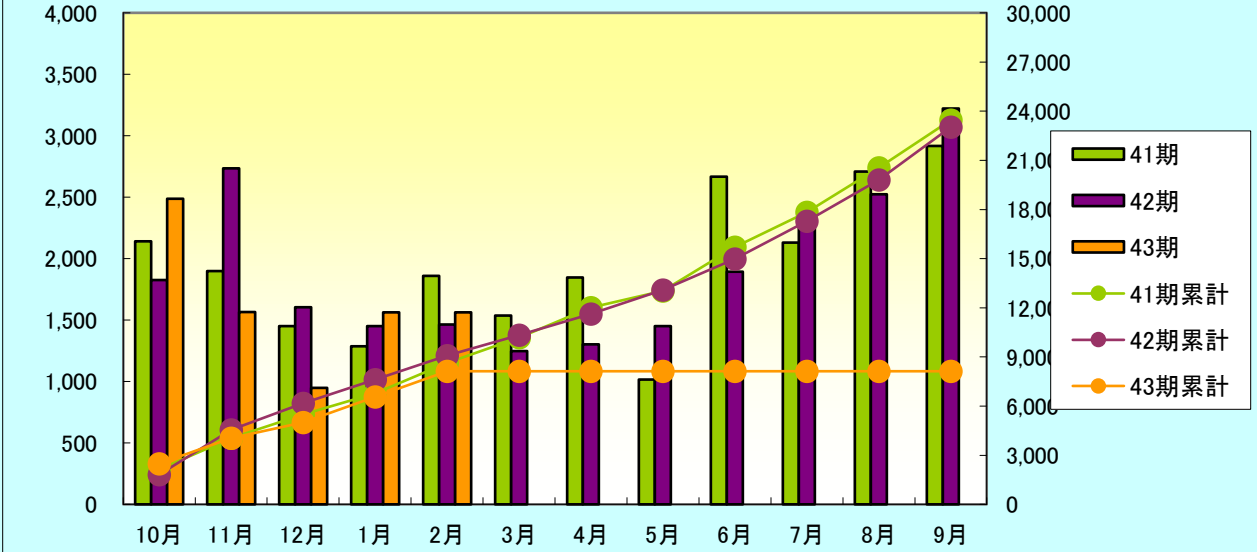
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

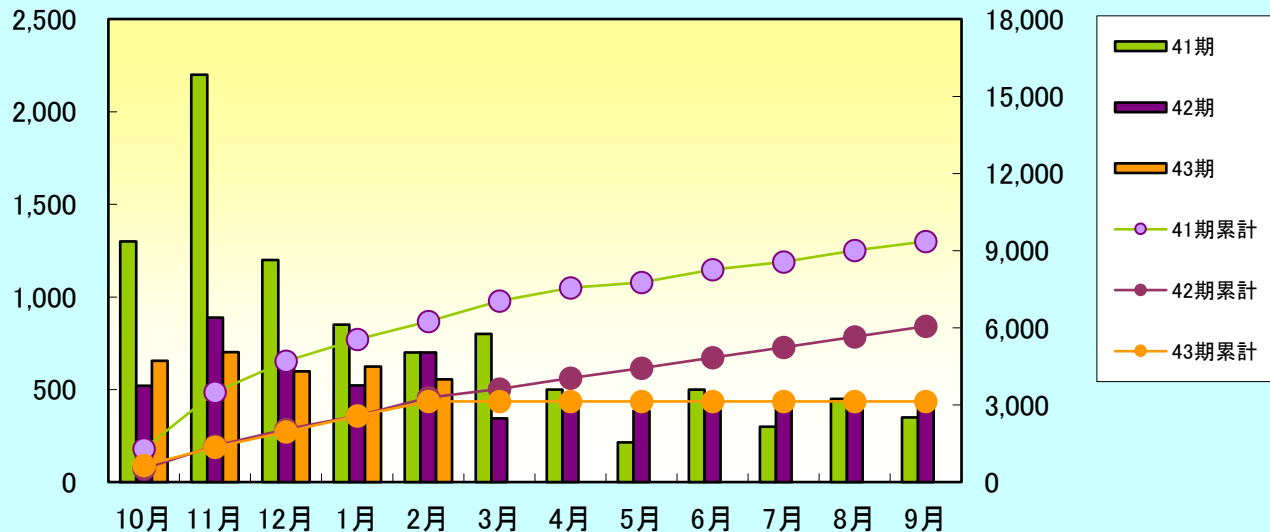
累計/折れ線(kwh)



ペットボトルのキャップ

月次/棒グラフ(個)

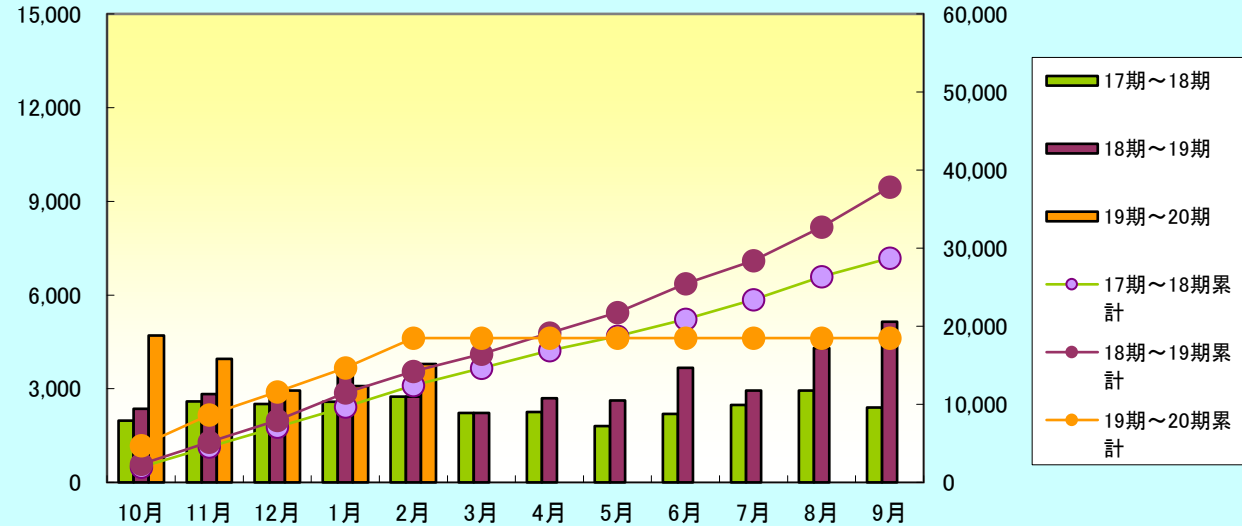
累計/折れ線(個)



電力使用量(SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

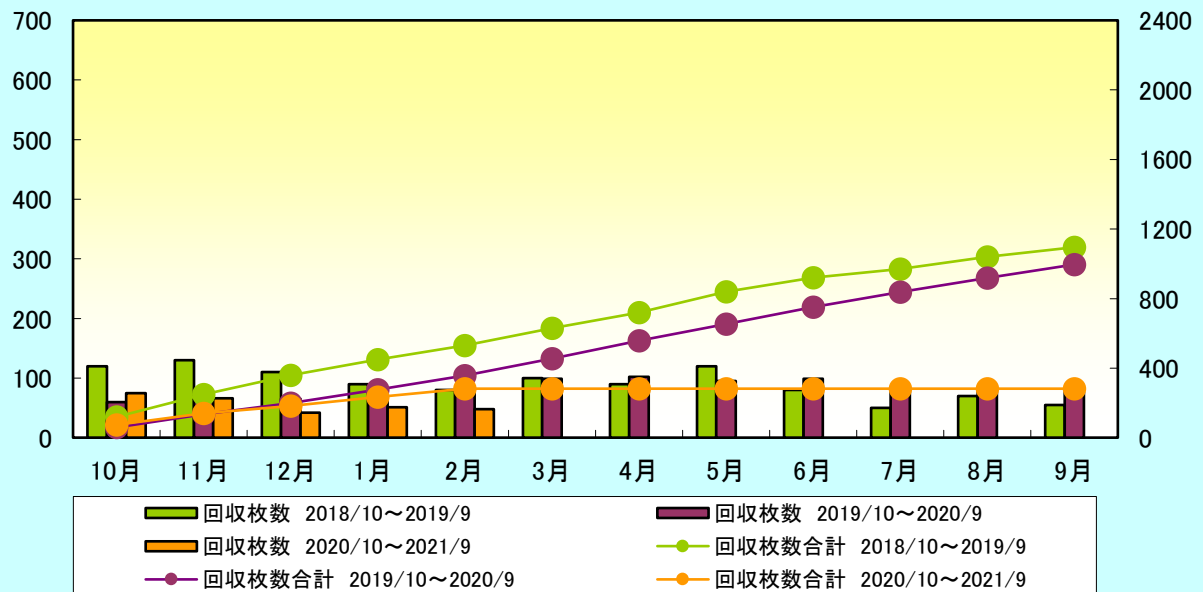
累計/折れ線(kwh)



使用済み切手回収

月次/棒グラフ(枚)

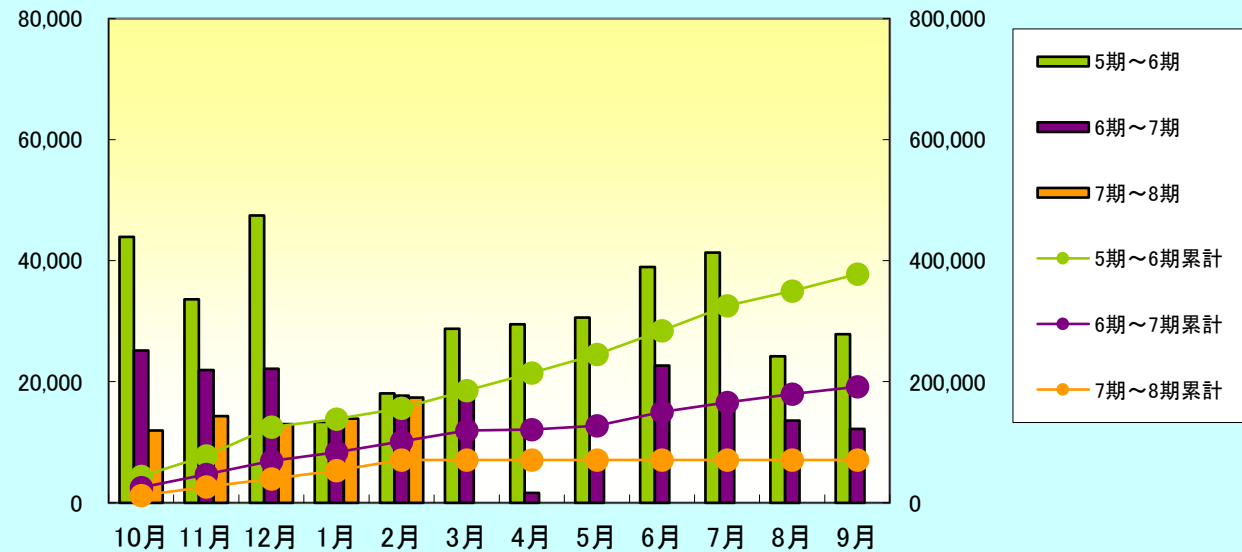
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SKW/CSI工場)

月次/折れ線(kwh)

累計/折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

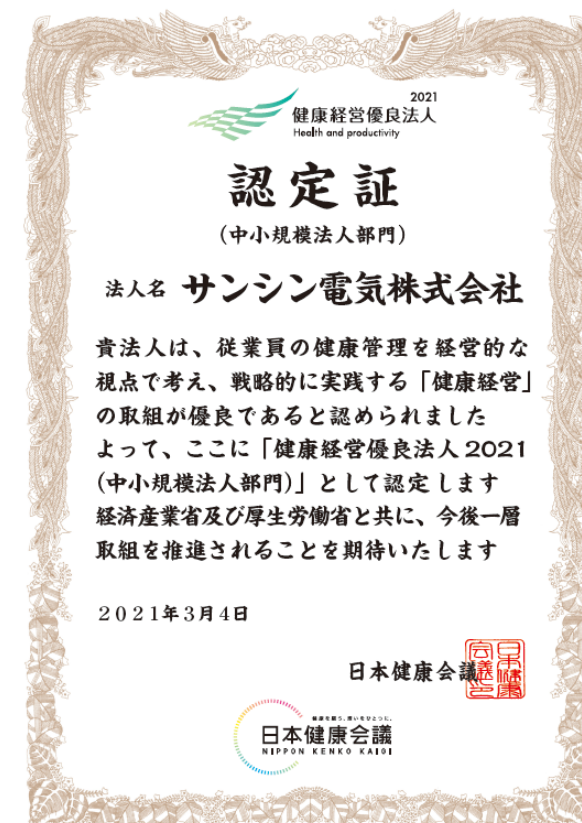
●「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」に認定されました！

サンシン電気（株）は、経済産業省と日本健康会議より、4回目の「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定を受けました。

今回は、新型コロナウイルス感染症予防のための取り組みや、受動喫煙対策に関する取り組み、『健康経営』についての地域への情報発信などに加え、今まで同様、ワーク・ライフ・バランスについての取り組みや、サンシン大学で行っている「健康筋力養成コース」、食生活の改善に向けた様々な取り組みなどにも全社で取り組みました。

これからも全社で継続して、個々の健康づくりやヘルスリテラシーの向上、お互いの心身の健康を気遣う職場づくりに努め、健康経営※を推進して参ります。

※健康経営は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（2月参加人数：延べ5名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 動物介在ボランティア活動実施（ミタスライフ）
※2020年8月時点では、コロナ禍により活動を休止しています。
- 学習塾において生徒のコーチング+学習支援事業を実施（ミタスライフ）
- 季節の飾り物をエントランスにディスプレイ：ひな人形・桜

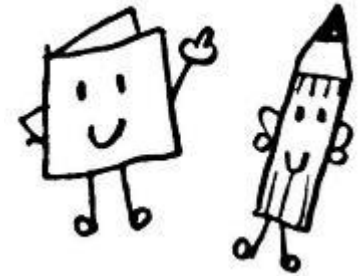


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績5名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 永年勤続者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 毎年インフルエンザワクチンの予防接種費用を会社が補助
- 毎月「健康筋力養成コース」開講（6～10名／回参加）
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2020年5月更新）⇒4年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2021年3月）⇒4回目の認定取得！
- 東京都より「令和元年度スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「令和元年度スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



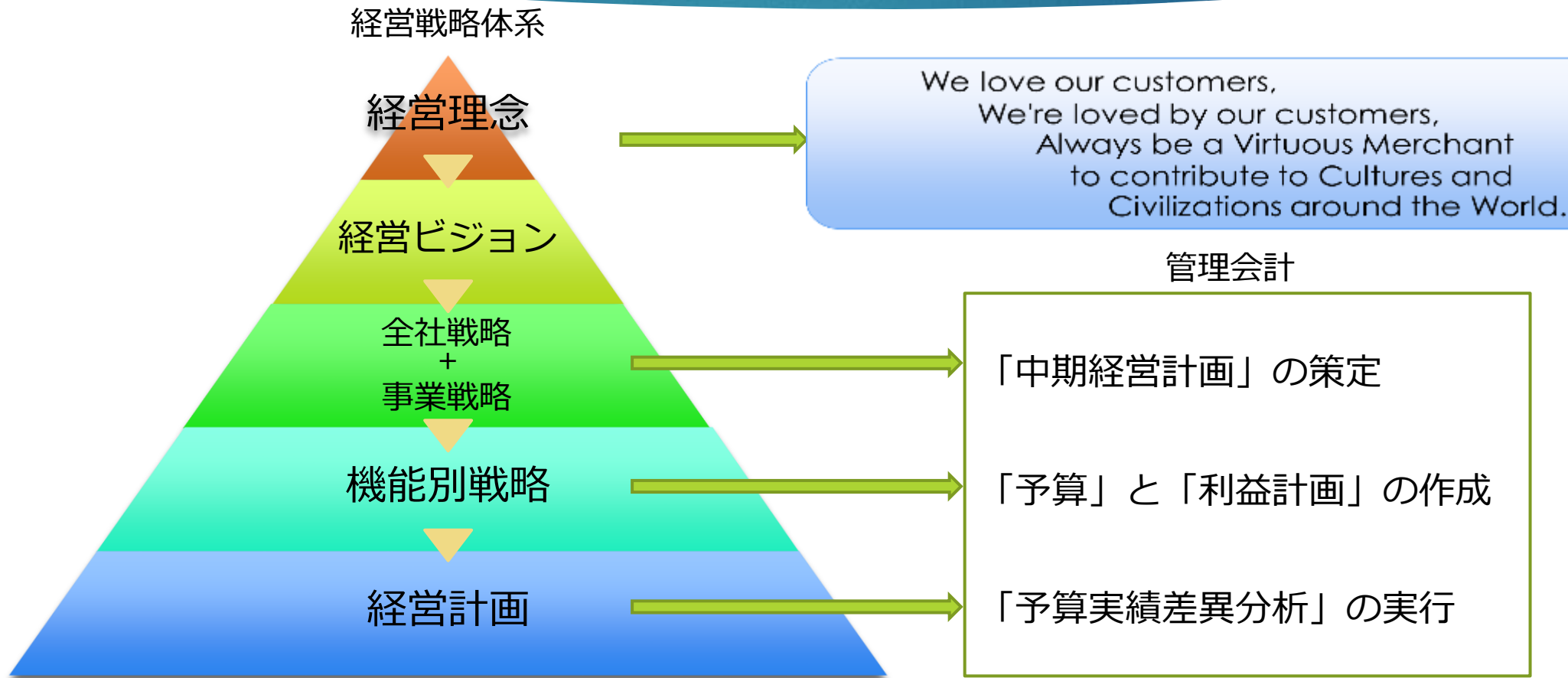
サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

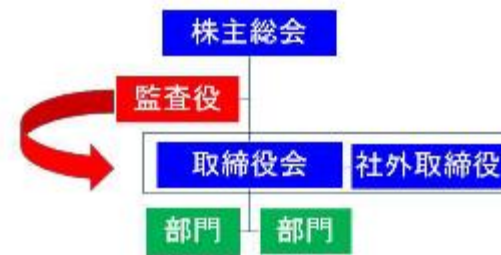
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

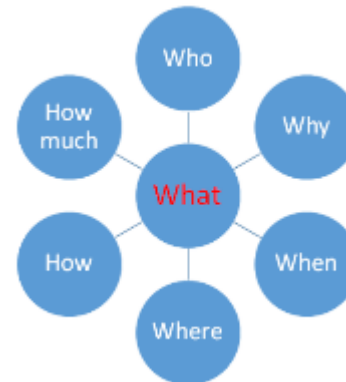
マネジメントシステムの基本構成



マネジメントシステムのレビュー



ビジネスの5W2H

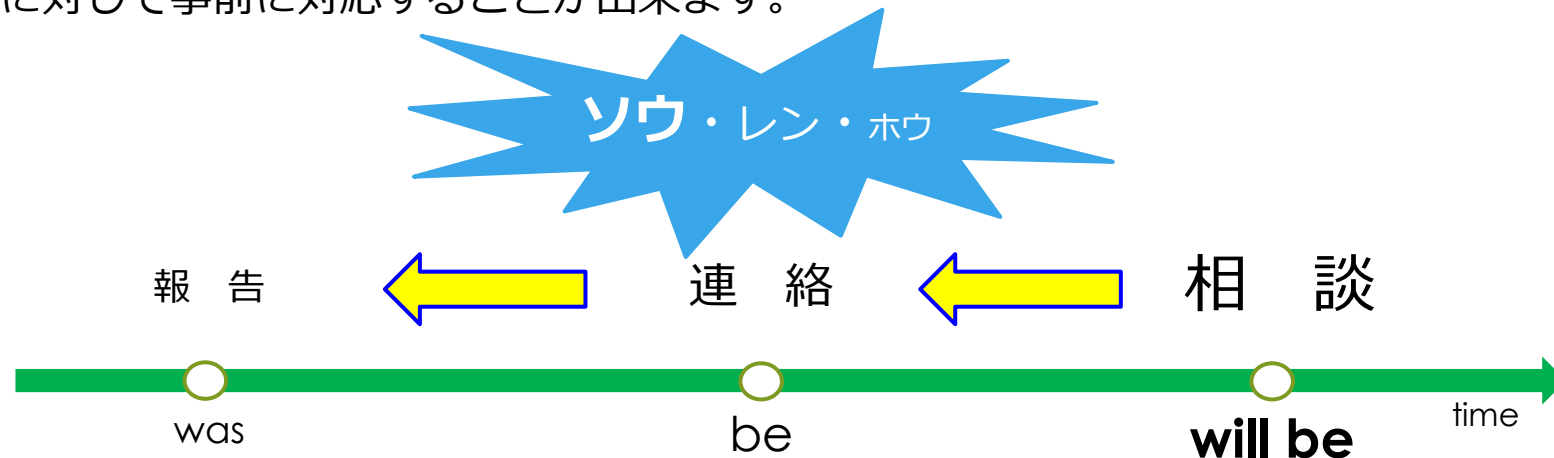


PDCA→P' サイクルの概念



未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、2011年



編集
後記

サンシン電気 営業管理課 Y.Y.

東日本大震災の発生から10年が経ちました。今月は新聞やテレビなどでも特集も多く生まれ、当時の状況や復興への歩みなどを目にする機会もあったかと思えます。この未曾有の大震災から学び、「防災」を再構築していくことが重要となります。今後想定される巨大地震に対しては一人ひとりが事前対策を徹底することが被害を最小限に抑えることとなります。今一度、身の回りを確認してみたいはいかがでしょうか。